

(縁・円・援)

兵庫えんだより



このニュースレターは、市町社協の生活支援コーディネーター、住民等が創意工夫しながら行われている生活支援、地域活動をお伝えするために発行いたします。

生活支援体制整備事業 市町担当者・管理者会議開催

令和5年5月30日、生活支援体制整備事業市町担当者・管理者会議を開催しました。今年度は、昨年度一年間かけて組み立ててきた生活支援COの研修から見てきたことをお伝えするとともに、行政の担当者として事業の押さえどころを丹波篠山市、川西市の方から報告を受けて、県行政、県社協も含めてさらに議論を深めていきました。
[参加者 83名]

見逃し配信してます！
初のオンデマンド!!



※この会議は、県高齢政策課の協力を得てオンデマンド配信をしています。
動画URL・資料等詳細につきましては、県社協地域福祉部までご連絡ください。
公開期間：令和5年8月31日(木)まで

《基調説明》「生活支援体制整備の今後の展開について」

地域づくりは、地域のこと、課題のこと、夢などをみんなで話し合い、共有し、ともに気づき、いかに取り組んでいくかを考えること。



協議体は、既存の場を活かそう。



【報告：兵庫県福祉部 高齢政策課長 田畑 司氏】

《実践報告・討議》 「生活支援COの役割理解と担当者として押さえるべき事業推進のポイント」

地域福祉が過渡期。重層ともつながるCO業務を任せっぱなしでいいのか。



1層COの役割は「読み解き」「編集」「組み立て」を行えること

話を聞き、情報を知ると所管課につなぎ対応する



【丹波篠山市 第1層CO：檜皮 佐治生氏】

協議・意見交換・悩み事解決のための勉強会等は、すぐに機会を設ける。これらは2層COの力が発揮できる後方支援。

【ファシリテーター
兵庫県立大学 准教授
竹端 寛氏】

「読み解き」
当事者が求めるニーズとは？
圏域毎の、全県的な課題とは？

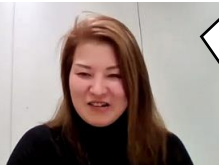
「編集」
「読み解」かれた課題をどのように加工して「組み立て」るか？

「組み立て」
A:実践組織による実践化
B:市町村による計画化・事業化
C:県や国での政策化

竹端氏資料より

丹波篠山市・川西市の実践が満載です！

生活支援COが行うつながりづくりは、できるかできないかの2択ではなく、話を聞き、じっくりと一緒に考えてみてください。



【川西市 第1層CO：
細海 里恵氏】

地域住民と一緒に地域診断を行うことで、住民が自分の地域のことを考え、活動を通して横のつながりや専門職の連携につながっている。

【発行元】(令和5年7月19日発行)
〒651-0062 神戸市中央区坂口通2丁目1番1号
兵庫県社会福祉協議会 地域福祉部
TEL 078-242-4634 FAX 078-242-0297
E-Mail: seikatsushien@hyogo-wel.or.jp (担当:富永・永坂)

《報告》「生活支援コーディネーター養成の取組みから見てきた事項」

何をすればわからない・定着しない悪循環、孤立…COにも組織化と場づくりが必要



【兵庫県社協 地域福祉部長 福本良忠】

生活支援 CO の養成体系について
 ・サービスづくりに縛られない
 ・高齢者だけでなく対象を再確認
 ・異動があっても継承していく
 ・孤立を防ぐ工夫



ディスカッション：県・県社協・市町担当者が語り合う

「生活支援体制整備事業を推進する上でのポイント」
 登壇者：報告者全員

行政部署間で課題に対する熱意の差がある…タイミングを見て他課での地域支援でつながるところを捉える。地域づくりの話し合いの場に第1層COは出かけていく。

政策化の中で、事業評価が行政ではできにくい。生活支援COが住民の声を聴いてきて、問題も課題も変換していく、他の部局も巻き込んで施策化を行っていく、これが、「読み解き」「編集」「組み立て」になる。

様々な政策課題の中で、優先順位をつける根拠が協議体であるが、課題、問題を生活支援COに押し付けることは住民に押し付けることと同じ。地域住民、第1層、第2層、社協、行政等でチームを組んで話し合う、力を合わせる事が重要。



自分は、この図のどこから始めているだろうか？



問題は発見するもの、課題は設定するもの。特に議論しない「地域課題」に苦しめられる。本当の問題の中の解決すべき部分を丁寧に把握していくことが大切。

地域支援課題を解決していくためには、必要に応じて多様な人と新たな場をつくっていくことを重ね合わせる中で整理ができる。

本当の支え合いは地域の中で問題に気が付き、これはできるといった気持ちを大きく形にしていくこと。



重層的支援体制整備、地域福祉計画等も含み市町の担当者だけで抱え込むのではなく、1層2層COとともに、うちのまちにあったものにしていくかを整理していく。

生活支援CO「えん巡りの旅」：こんなことありました！



コミュニティコーピング体験会（宝塚市社協）
 5月29日、「えんがわナビ」で情報提供いただいた宝塚市で地域の居場所で開催された「コミュニティコーピング体験会」に参加してきました。ほかにも、芦屋市や三木市の生活支援COも参加されていました。仮想の地域の中で孤立している人をつくらないために、さまざまな特技を持つ人や専門職に出会う。そして、いかにしていくかを参加されていた住民の方と、知恵を出し合いながらカードを利用しながら考えていく。市町、立場を超えて一体感を得ながら深めていく貴重な体験でした。



【編集後記】 今回の市町担当者・管理者会議は、県社協が昨年度、研修体系を組み直す中で見てきたことも報告させていただきました。多様な立場の方と何度も協議しながら作り上げていく過程は、地域づくりと同じでした。「身近なところのたて割り・孤立」が地域のたて割り・孤立につながっている。市町の担当者、管理者の方々を知っていただきたいことの一つだったように感じます。

お知らせ
 生活支援CO基礎セミナー開催
 日時：8月4日（金）10:30～16:30
 8月22日（火）10:30～16:30
 場所：あすてっぷKOBE